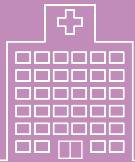


YOKA HOSPITAL NEWS

八鹿病院 ニュース



2013年
4月号

地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



緩和ケアカンファレンスの様子

● yokahospital 「医療」

麻酔科

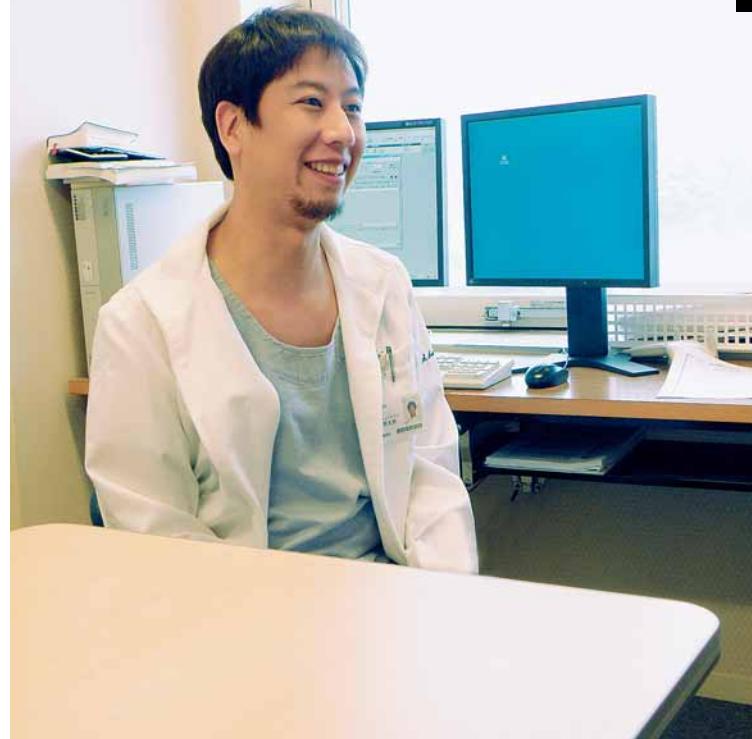
- 現場リポート！あなたの知らないかも知れない八鹿病院
「中央リハビリテーション科」
- 患者会・教室の輪っか「糖尿病教室」
- トピックス

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、
医の倫理を基本に、質の高い医療
と優れたサービスをもって、住民
の健康を守り、地域の発展に尽く
します。



当院は敷地内全面禁煙です
ご協力宜しくお願い致します



麻酔科

手術室の外でも 患者さんに貢献していきたい

麻酔科は手術の麻酔以外に患者さんとの関わりがないように思われがちですが、影ながら患者さんをしっかりサポートしています。そんな麻酔科について坂本昇太郎医師にお話しを聞きました。

— まず、麻酔のことをお詳しく述べてください。

麻酔は、全身麻酔と部分麻酔に分けられます。全身麻酔が主となっています。全身麻酔で一番大切なことは、痛みをとることです。それと同時に意識をなくして状態にして手術で切られるのをわからなくする、あと手術がしやすいように体を動かなくすることを目的にしているのです。「痛みをとる」「意識をとる」「動かなくなる」この3つは麻酔の3要素とも言われています。

麻酔をかけるにはいろんな薬をバランス良く使うのですが、血圧が下がったり体を動かなくなるために呼吸も止まります。それに対応し、血圧を調整したり呼吸の管理をするのが麻酔科医の主な仕事です。しかし、それだけなら機械でもできてしまうのですが、麻酔科医はそれらに加えて術

麻醉科医が不足しているのが大きな理由の一つです。あと、他の診療科だと、すごく長いスパンで患者さんの治療計画をたてて診ていて、治療の効果が出るのに数週間かかるたり、効果がはつきり出ないということもあります。一方、麻酔科医が行う処置では、すぐ反応が出て結果もわかつた上で自分が行った治療が正しいかどうかの判断が一番やすい。そういう部分に魅力を感じました。あと、絶対に患者さんを死なさない自

後の状態を良くするために、輸液量や麻酔の量を調節しています。また、麻酔方法が、がんなど再発率に関与することがわかつてきたの方法を選んで行っています。の疾患、糖尿病などの合併症がある方に対しても、患者さんに応じた一番良い麻酔方法を選んで行っています。

— 先生はなぜ麻酔科医に?

麻酔科医は あなたの命を見守る 「相棒」です

麻酔で心臓の働きや呼吸を抑制される患者さんの全身管理を行い、手術が円滑に終了するよう術前から術後にわたり患者さんを見守っています。

麻酔・手術開始

術前診察



麻酔を開始します。目的に合わせた麻酔を確実に行います。

手術までに患者さんの服薬状況や合併症の有無などを確認し、術中にかかる麻酔について説明をいたします。

信が出てくるというか。(笑)もちろんそんなことはないですが、麻酔科医をやつていて緊急事態に対応する能力は一番付くんじゃないかなあと僕自身は思っています。

— 確かに全身麻酔で何もできない私たちを生かしてくれているのですからね。

全身を調節するというか。麻酔をかけるということは、健康な状態から死ぬ直前まで落としているような状態なんです。トラブルがあつたらすぐに対処しないといけないですしね。呼吸状態や心臓の働きを維持して、手術が終わったら意識などを元の状態に戻すということが大事なんです。

— 縁の下の力持ちのような存在ですね。今まで患者さんと関わって、よかつたなと思うことはありますか?

全身麻酔に加えて硬膜外麻酔といって背中から挿入、留置したチユーブから麻酔

薬を投与して手術後の痛みを取るという治療があるんですけど、手術が終わって全然痛みもなく「いい夢みとったわ~」って、すつきり目が覚めると、「やった! よかった!」って思います。

— 手術中に「いい夢」を見る方もあるのですね。

結構おられますね。「全然何もわからんまに終わつたわ」と言われる方が。こんなふうに、田が覚めた後も手術したかどうかわからぬ状態がすぐく理想的な麻酔で目標にしています。

— 緩和ケアのチームにも入られている坂本先生。麻酔と緩和ケアの関わりは?

がん等で治療ができない状態の方は、大体の患者さんが終末期に近づくにつれ痛みで苦しまれます。最期まで安らかに過ごそうと思つた、痛みのコントロールが重要となつてくると思う



緩和ケアカンファレンスの様子

んです。最近は緩和ケアも知られてきて、当院でも麻薬を使った鎮痛などかなり進んでいます。そこへ麻酔科医が入ることで、麻薬では抑えきれないような痛みに対して神経ブロックを行なうなど、麻薬以外の方法で痛みのコントロールも行えます。

緩和ケアを広めていけたらと思ってます。入院している方に対しても、もつと積極的に関わつて行きたくと思っています。緩和ケア外来や、往診もできたらいいなと思っています。

がん治療中の方に対しても、緩和ケアを広めていけたらいいなと思っています。緩和ケアを広めていけたらいいなと思っています。

— 地域の方へメッセージをお願いします

今まで麻酔科は手術室の中だけで全てが完了しているというか。そこから外に出て何か貢献することは少なかつたのですが、これからはペインクリニックや緩和ケアなどで、手術室外でもいろんな患者さんに貢献できたらなあと思つています。

— 今後の目標は?

当院の緩和ケアは、終末



術後管理

手術当日および翌日以降に担当麻酔科医が患者さんの元へ伺い、状態を確認します。



必要に応じて適切な投薬や輸液、輸血などを行なながら手術が無事終了することを待ちます。



術中管理

心臓の状態や血中酸素・血圧・体温・麻酔ガス濃度など、さまざまなモニタリングで全身をチェックします。

今回お邪魔したのは



中央リハビリテーション科



兵庫県下の自治体病院の中では随一のスタッフ数である当院のリハビリテーション科。発症急性期から回復期、維持期まで一貫したリハビリテーションを提供し、患者さんの自立支援のための手助けを行っています。

40数年前に1人の理学療法士から始まった八鹿病院の「物療室」は、今や50人以上のスタッフを抱える大きな集団の中心的な部署となる、「中央リハビリテーション科」となりました。職種も理学療法士のみならず、作業療法士、言語聴覚士、さらには公的病院に勤務していること 자체が珍しい音楽療法士もいる大きな部門となっています。

『そつと後ろから』患者さんを支えたい

なぜ、こんなに多くの職種が集まる部門になったのかと言えば、それは地域の皆さんのが、より多様なニーズに応えるためです。以前は、骨折や脳卒中などの病気で不自由になつた方の体の回復を目指すだけだつたりリハビリも、今や対象となる病気もさまざまになり、今は体が動くけれども療養のために体力が落ちてしまつだらうと思われる方や、息切れのある方、糖尿病の方、腎臓などが悪い方など、一見手足の不自由さとは関係なさそうな方々にも多く関わるようになりました。また、年齢も100歳を超える方から、生まれて間もない子ども達まで幅広く関わっています。

私たちは、すべての地域の方々が地域の中でその人らしく生活していくことが出来るようだと、「そつと後ろから」「支えさせていただくことを基本として、日々の関わりを続けています。

なぜ、こんなに多くの職種が集まる部門になったのかと言えば、それは地域の皆さんのが、より多様なニーズに応えるためです。以前は、骨折や脳卒中などの病気で不自由になつた方の体の回復を目指すだけだつたりリハビリも、今や対象となる病気もさまざまになり、今は体が動くけれども療養のために体力が落ちてしまつだらうと思われる方や、息切れのある方、糖尿病の方、腎臓などが悪い方など、一見手足の不自由さとは関係なさそうな方々にも多く関わるようになりました。また、年齢も100歳を超える方から、生まれて間もない子ども達まで幅広く関わっています。

当院リハビリの4つの専門分野

作業療法（作業療法士4名）

理学療法士が行う基本動作練習と合わせて、「箸を使ってご飯を食べる」「服を着替える」といった日常生活で必要となる、より細かい動作能力の回復を目標としてリハビリを行います。また、認知症や高次機能障害など、脳卒中などの疾患により「麻痺は無いのに簡単な作業や理解ができない」などの、脳神経障害に対しても改善を目指しています。

理学療法（理学療法士12名）

病気やケガなどによって身体が不自由になった人に対し、筋力増強などの運動療法や超音波などの物理療法を併用し、「立つ」「歩く」など基本的な身体能力の快復や向上を目的にリハビリを行います。また、急性期の呼吸器疾患や胸部外科手術後の呼吸リハビリや廃用障害の予防、神経難病のリハビリにも積極的に取り組んでいます。

音楽療法（音楽療法士1名）

患者さんの機能に合った音楽を治療として活用することで、癒し効果はもとより、身体・精神的な機能の改善を目標としています。パーキンソン病、ALSなどの神経難病、高次脳機能障害、認知症、ターミナル期の患者さんなど神経的援助を必要とする方に対して実施しています。また、介護者の方にも「ほっ」とする音楽の温かさで心の癒しをお届けしています。

言語聴覚療法（言語聴覚士3名）

様々な疾患によって言語・構音・嚥下に障害をもつ患者さんに、個別のプログラムを作成した上でリハビリを行います。言語・構音障害では、言葉の改善はもちろん、パソコンなどのコミュニケーションエイドを使用し、人と人が「会話」できる為のお手伝いをしています。また、嚥下障害の患者さんに対して嚥下評価を行い、その人に適した食べ物の形態や食べ方の指導を行います。



音楽は人を癒し、優しくし、そして強くする力を持っています

音
楽
療
法



「しんどいかもしれないけど、まずは一緒に坐りましょう」「そっと後ろから支える」私たち療法士はいつも心がけています。



硬くなった手足を、柔らかく動かしやすくなるように、ベッドの上から運動をはじめます。



人工呼吸器を着けていてもベッドから離れることが出来る。リハビリの一歩です。



パソコンなどのハイテク機器を上手く利用すると、しゃべれなくなってしまっても会話がはずみます。

作業
療
法

～ある日のリハビリ風景～

外来・各病棟と患者さんの元へ出向き細やかなりハビリに対応しています

11 病棟（緩和ケア）

10 病棟（療養病棟）

9 病棟（呼吸器疾患）

8 病棟（神経筋疾患）

7 病棟（脳梗塞・循環器疾患）

6 病棟（内科疾患）

5 病棟（外科疾患手術後）

4 病棟（リハビリ）

外来リハビリ

回復期リハビリ病棟

安全な食事のため、飲み込み具合を確認しています。



気持ちが通じ合うその日のために一緒に取り組みます。

※回復期リハビリ病棟は、別号にてご紹介します。



日常生活の中にあるものを使って手先の練習が出来ますよ。

作業
療
法



“横向いた方が階段も下りやすいんじゃ”
“家でもそんな風にしてみて下さい”



院内のイベントも盛り上げる、これも僕たちの大切な役割！

理学療法士
田原邦明



当院のスタッフ数は増えていますが、リハビリの充実にはまだマンパワーが不足している状況です。年齢層も若く、皆様の期待にはまだまだ応えられていないと感じています。本当の意味で地域住民の皆様のリハビリーションの一端を担える様にこれからも努力を続けていきます。



同じ病気・障害を持つ患者さんや
ご家族が参加されている
「患者会・教室」をご紹介！

患者会・教室

の

「糖尿病教室」



勉強会

藤澤医師をはじめ栄養管理科・歯科口腔外科・眼科・薬剤科・リハビリテーション科など、各専門スタッフからみなさんに知りたい糖尿病についての勉強会を行っています。

八鹿病院スタッフの声

正しい知識で糖尿病と上手に付き合うために

糖尿病は一般的には症状がなく、自覚症状があらわれたときにはすでに合併症が進行しています。一方、糖尿病は早期に発見し、適切に治療を行えば決して恐れる病気ではありません。糖尿病と上手に付き合うためには、正しい知識を身につけることが大切であり、「糖尿病教室」がそのきっかけになればと思います。当院の専門スタッフが楽しく分かりやすくご指導させていただきますので、どうぞふるってご参加ください。

糖尿病教室で楽しく勉強しましょう

糖尿病教室の再開にあたり、目指したのは「楽しく学ぼう」です。いい話であっても長時間難しい講義を聞いても身につきません。糖尿病はずっと付き合っていくなければならない病気です。しかし、食生活(食習慣)を見直し、基本をマスターすれば、自分でコントロールできる病気もあります。ひとりで悩まず、糖尿病教室を利用して医療スタッフや周りの仲間とともに楽しみながら勉強しましょう。



内科
糖尿病専門医
藤澤 武



栄養管理科
管理栄養士
渡邊 善利

平成23年6月より糖尿病専門医による外来診療が始まり、それに合わせて平成24年6月から糖尿病教室を再開致しました。

以前は、詰め込み型の過密なカリキュラムでしたが、今回の糖尿病教室は医師を中心とした他職種の医療スタッフが短時間ずつ関わる、「気楽な勉強会」を心掛けています。

糖尿病教室では、血糖値のコントロールなど糖尿病の諸症状にお困りの患者さんやそのご家族の方を対象として、1回約1時間の教室を年6回(偶数月)開催しています。当院通院中の患者さん(入院患者さん含む)はもちろん、糖尿病について学びたいと思っておられる方は是非、積極的に参加してください。病院スタッフとともに、楽しく気楽に糖尿病のことを勉強しましょう。

【お問い合わせ】
内科外来

第5回は調理実習でした！

今回初めての調理実習を実施し、鶏肉と小松菜の煮物、焼きなす、具だくさんみそ汁、フルーツをみなさんにお作りいただきました。

糖尿病の方で重要なのが「糖分」。いかに人工甘味料（砂糖など）を控えておいしい食事を作るかがポイントとなりました。



各メニュー班に分かれてわいわい調理中。分量もしっかり計ってくださいね～



カロリー控えめでもボリューム満点！おいしくいただきました。
また調理実習したいという声もありましたので、次回乞うご期待！



完成！開始時間が少し遅ましたが、主婦の皆様の技が光り、
予定時間に全員で試食です。

あっという間に盛りつけへ。
男性参加者にもきれいにフルーツを盛りつけていただきました。



● 調理実習で作ったレシピを紹介 **「鶏肉と小松菜の煮物」**

材料
(4人分)

鶏もも肉（皮つき）	200 g
茹でたけのこ	4本 (200 g)
干し椎茸	4枚 (14 g)
小松菜	1/3束 (150 g)
しょうが	1片 (15 g)
水	適量
ごま油	大さじ 1
濃い口しょうゆ	大さじ 2と1/2
和風だしの素	小さじ 1
みりん	大さじ 1

- ①鶏肉はひと口大に切る。たけのこは薄切り、干し椎茸は水で戻し軸を取り、小松菜はさっと茹でて4cmの長さに切る。しょうがは薄切りにする。
- ②鍋にごま油を入れて熱し、鶏肉・しょうがを入れ炒め、★とひたひたになる程度の水を加え、椎茸とたけのこを入れ、やわらかくなるまで煮る。
- ③仕上げに小松菜を加えてさっと煮る。



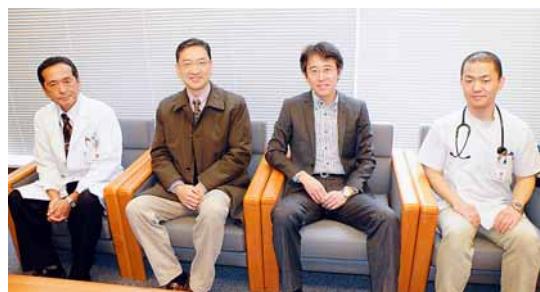
トピックス

2月1日 豊永高史先生が来院!

内視鏡治療（ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術）導入時よりご指導頂いている神戸大学から、今回も早期消化管癌の内視鏡治療（ESD）の第一人者として世界的に有名な、神戸大学医学部准教授の豊永高史先生に、韓国国立大学のコウ教授と共に来院して頂き、早期胃癌ならびに早期大腸癌のESDをして頂きました。世界一の技術と言われる手技は何度拝見しても素晴らしい、丁寧に解説、ご指導頂きながら、難しい病変ではありましたが世界一の技術により完璧な治療をして頂くことが出来ました。



ESD をされる豊永先生と当院内科医師



左から当院長の
宮野医師、コウ
教授、豊永先生、
内科森田医師



医師異動のお知らせ

【新任医師】 平成 25 年 4 月 1 日～～よろしくお願いします～



【内科】
しみず たつのり
清水 辰宣



【内科】
すぎやま ようすけ
杉山 陽介



【内科】
ばばぐち ゆか
馬場口 由佳



【整形外科】
もとづ やすひこ
元津 康彦



【整形外科】
てしま たかし
手島 隆志



【放射線科】
くわ けいた
久家 圭太



【麻酔科】
さかもと しょうたろう
坂本 昇太郎



【研修医】
つじもと だいき
辻本 大起



【研修医】
さくらい ていこ
櫻井 禎子



【研修医】
いわね せいごう
岩根 成豪

【退任医師】 平成 25 年 3 月 31 日付
～お世話になりましたありがとうございました～

【内科】青木智子
【内科】高津南美子
【外科】三宅孝典
【放射線科】三好史倫
【研修医】中村晃史

発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1 TEL. 079-662-5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

